

令和４年度 第１回岡崎市農業振興ビジョン推進委員会 ユニバーサル農業推進
部会 会議録

１ 会議の日時及び場所

令和４年９月２日（金）１４時～１６時３０分

岡崎市役所西庁舎７階７０２号室

２ 出席部会員等の氏名

部会員（７名）

安藤 正巳	（あいち三河農業協同組合営農企画部営農企画課長）
加藤 智子	（あいち三河農業協同組合女性部）
小原 幹代	（岡崎女子短期大学准教授）
柴田 若江	（岡崎市農業委員）
中川 郁朗	（愛知県立みあい特別支援学校教諭）
藪本 真也	（社会福祉法人 愛恵協会管理者）

オブザーバー（２名）

川田 勝也	（㈱エススリーブランディング 代表取締役社長）
近藤 大補	（あおいと創研㈱ CEO）

３ 会議次第

議題

- １ 市民農園事業について
- ２ 農福連携事業について
 - （１） 令和３年度実施内容報告
 - （２） 令和４年度実施内容報告及び事業検討
 - （３） 今後の予定及び課題について
 - （４） 愛知県立みあい特別支援学校の農福連携について

４ 議事録要旨

議題

- １ 市民農園事業について
市民農園開園状況等について、事務局から説明。
- ２ 農福連携事業について
 - （１） 令和３年度実施内容報告
農業者（認定農業者）及び福祉事業所（就労系支援施設）に実施した農福連携アンケート結果、また農福連携セミナー実施報告について、事務

局から説明。

(2) 令和4年度実施内容報告及び事業検討

視察報告、相談事例報告、お試しノウフク事業の開始案内及び愛知県農福連携相談窓口との連携について、事務局から説明。

(3) 今後の予定及び課題について

岡崎市農林業祭での農福連携ブースの設営予定、農福連携セミナー開催予定等について、事務局から報告。課題として、岡崎市農産物の加工品製作の検討について、事務局から説明。

○藪本部会員

農産物の加工品製作に取り組みたいが、職員入れ替え時の技術継承の確保、また販路の継続的な確保が困難である。

○川田氏

人の思いを継続することは難しく、職員が変わると途絶えてしまうことが多い。商品やサービス自体がブランド化することにより、商品等に対しての人の関わり方が継続していくことになる。また、農福連携の商品は、様々な箇所で農福連携コーナーとして販売する機会があり、商品化しブランド化することは、事業所の知名度も上がり、工賃アップにもつながる等価値がある。

○近藤氏

農福連携を行うことは、地域性と社会性にもつながり、地域ブランドにもなる。

○小原部会員

加工品を、ふるさと納税の商品として取扱うことも、良い効果があるのではと感じる。

(4) 愛知県立みあい特別支援学校の農福連携について

愛知県立みあい特別支援学校の農福連携の取組について、中川部会員から説明。

○加藤部会員

みあい特別支援学校を更に支援できないか。

○安藤部会員

農遊館等での農福連携商品コーナーの実施を検討する。

(事務局) 引き続き岡崎市では、みあい特別支援学校の農福連携会議にも出席し、支援を検討していく。

終了を宣言。